

# 四日市市 津波避難マップ

あなた、家族、地域の命を 津波から守るための **5つのポイント**

今、四日市市で大きな地震が起こったら・・・ どうなる？

どうする？



### 南海トラフ地震

では、  
※理論上最大クラス

最大で **7** 震度が想定されている

最大で **5** m の津波が襲う

資料：南海トラフ（理論上最大クラス）重要予測分布図（行方 2013 年 3 月 現在）

地震が起こる前に **耐震化・家具の固定**

**遠くて高い場所に避難する**

津波情報が出ている間は **避難を続ける**

四日市市には、どんな津波が襲ってくるんだろう？ 命を守るためには、どうしたらいいんだろう？

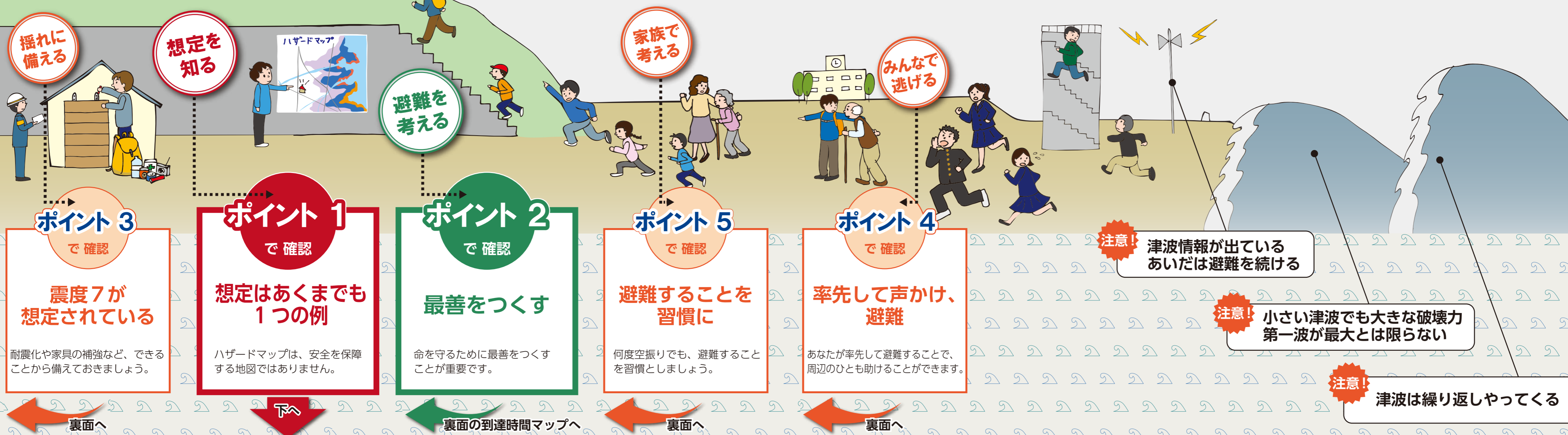
**5**つのポイントから考えてみましょう

発行 四日市市 企画・編集 四日市市危機管理室、(株)アイ・ディー・エー社会技術研究所  
 監修 片田敏孝 (群馬大学大学院教授)、群馬大学広域首都圏防災センター災害社会学研究室  
 平成 27 年 3 月  
 問い合わせ先 四日市市危機管理室  
 TEL : 059-354-8119  
 FAX : 059-350-3022

## 津波から命を守るために

まずは **遠くて高い場所へ避難**

遠くに避難できない場合は **最寄りの津波避難ビルや高い建物へ避難**



## ポイント1 想定はあくまでも1つの例

南海トラフ地震は定期的に発生します。四日市市では過去にも、津波と地震に何度も襲われました。

**宝永地震 (1707 年)**  
 1707 年 (宝永 4 年) 10 月、マグニチュード 8.6 規模の巨大地震が遠州灘から四国までの沖合を震源として発生しました。地震の規模は我が国最大級で、死者は 5 千人以上、全壊家屋 5 万軒以上で、壊れた堤防の合計長は 800km にも及びました。  
 四日市地域では、津波により海岸堤防が破壊され、家屋倒壊 152 軒、大破損 524 軒の被害が記録されています。  
 出典：四日市市史

**安政東海地震 (1854 年)**  
 1854 年 (安政元年) 12 月、熊野沖から遠州沖、駿河湾内に至る広い海域を震源とするマグニチュード 8.4 の地震が発生しました。また、翌日には紀伊水道から四国にかけての南方海域を震源とする安政南海地震も発生し、死者数千名、倒壊家屋 3 万軒以上という被害をもたらしました。  
 四日市地域では、全壊 11 軒、半壊 145 軒の被害が記録されています。  
 出典：四日市市史

**昭和東南海地震 (1944 年)**  
 1944 年 (昭和 19 年) 12 月、マグニチュード 7.9 の地震が発生し、大きな津波が熊野灘から東海沿岸を襲いました。また、2 年後の 1946 年 (昭和 21 年) にはマグニチュード 8.0 の昭和南海地震が発生しました。  
 四日市地域では、全半壊の建物 1,263 戸、死者 22 人の被害が記録されています。  
 出典：四日市市史

**すでに 70 年以上経過**

2014 年 (平成 26 年) 3 月に三重県が、南海トラフの地震について、過去に周期的に発生していて、地域で起こりうる津波と、東日本大震災を踏まえ、最新の科学的知見に基づいて発生しうる最大クラスの津波の、2 つの想定を公表しました。

約 100 ~ 150 年周期で発生する、歴史的に地域で起こり得ることが実証されている津波  
過去最大クラスの南海トラフ地震

発生頻度は極めて低いですが、理論上起こり得る最大クラスの津波  
理論上最大クラスの南海トラフ地震

津波避難マップでは、理論上最大クラスの南海トラフ地震を想定した浸水深と到達時間を掲載しています。

### 浸水深

このマップは「理論上最大クラスの南海トラフ地震」による津波の浸水深を想定したものです。

どれくらい深く浸水するかみてみましょう

市では、防災対策を行う際の目安として、この津波浸水深想定を活用します。津波が襲来した場合、四日市市ではどのような浸水になるでしょうか。このマップで自宅などの身近な場所がどれくらい深く浸水するかみてみましょう。

予想される津波の浸水深

津波の浸水による影響

- 10m: 3階まで水没する
- 5m: 2階まで水没する
- 3m: 木造家屋のほとんどが全壊する
- 2m: 木造家屋の半数が全壊する
- 1m: 津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなる
- 0.3m: 動くことができなくなる

— 津波避難目標ライン  
内陸部の海拔 5m の地点を結んだライン

0 0.5 1 2 km  
1:35,000